

高次脳機能障害

ふれあい求め
おにぎり作り

脳卒中などで脳に損傷を受け、高次脳機能障害を負った人たちの活動の場「おにぎりカフェゆんるり」が10月1日、横須賀市久里浜4丁目にオープンする。料理をする障害者と触れあうことで、高次脳機能障害への理解が深まることが期待されている。

(其山史晃)

「横須賀にカフェ」「ゆんるり」開店へ「頑張る姿見て」

高次脳機能障害は「見えにくい障害」と言われている。特定の物や課題に注意を集中し続けることができない注意障害や、覚えたことをすぐに忘れる記憶障害、効率的に作業ができなくなる遂行機能障害などがある。「ゆんるり」はもともと、社会福祉法人「三育福祉会」が運営する久里浜障害者支援センターの名称。横須賀市の委託事業として、同センターは在宅障害者向けの相談事業と障害者に日中の活動の場を提供する事業に取

り組んでいる。今年度は両事業に対して市から約2300万円が支出されている。現在、市内在住の9人がセンターを利用しており、うち7人に高次脳機能障害がある。調理場には障害を克服する工夫として、「手を洗う」「ユニホームを着る」「お米をといで炊く」「ふきん、まな板、おにぎり型を用意する」という作業手順を書いた紙が壁に張られていた。

調理の様子を見てもらおうと、20人ほどが入れ

る客席から調理場が見えるようになっていた。

高次脳機能障害がある7人はそれぞれ、会社員や公務員、ヘルパーなどだった。風邪による脳炎、脳腫瘍手術の後遺症、脳梗塞などが原因で障害が起きた。なぜ自分がこの施設にいるのか理解できない人や、「早く元の職場に戻りたい」と訴える人もいた。

「ゆんるり」センター長の岸川江利子さん(36)によると、高次脳機能障害がある人は、しばらくは自分の障害に気づかない場合が多い。しかし、障害に気づいたとき、以前のギャップを感じ、うつ状態になりやすいという。

岸川さんは「誰にでも、いつでも起こりうる。障害がある人たちが頑張っている姿を見て、地域で支える必要性を感じてほしい」と言った。

カフェ「ゆんるり」の営業時間は午前10時～午後2時半。水曜日と土曜日、祝日が定休。梅や昆布、めんたいこなどが入った7種類のおにぎりが



①施設職員のサポートを受けながらおにぎりなどを作る②5000円のセットメニューいずれも横須賀市久里浜4丁目の「ゆんるり」で

80～1000円、肉じゃがや鶏のから揚げなどの一品料理も作っている。

ランチタイムは午前11時半～午後2時。おにぎり二つとおかず、みそ汁、コーヒーの白替わりセットメニューが500円で食べられる。収益金は、利用者の給料になる。

問い合わせは、「ゆんるり」(046・838・4627)へ。